

第3回昭島市総合基本計画審議会 議事要旨

＜日時＞ 令和8年7月16日（木）午後6時30分～午後8時00分

＜場所＞ 昭島市役所 1階 市民ホール

＜出席者＞（敬称略）

【委員】

田中 啓之（会長／相模女子大学 副学長 人間社会学部地域クリエーション学科教授）、前田 耕司（副会長／早稲田大学教育・総合科学学術院名誉教授）、氏井 初枝（昭島市教育委員会 委員）、安倍 弘行（昭島市社会福祉協議会 事務局長）、高橋 靖和（昭島市自治会連合会 会長）、寺澤 瞳（昭島六団体連絡協議会 財務理事）、根本 幸雄（連合多摩中央地区協議会 事務局次長）、堀井 真理子（昭島観光まちづくり協会 事務局長）、武藤 茂（昭島市商工会 事務局長）、荒井 康裕（東京都立大学 都市環境学部都市基盤環境学科准教授）、小川 比左江（公募市民）、細田 悟（公募市民）、牧野 愛子（公募市民）

【事務局】

池谷 啓史（企画部長）、渡邊 麻衣（政策調整担当課長）、村山 純（企画政策課長）、藤岡 真希（企画調整担当係長）、板谷 麻理子（企画政策係主任）

【説明員】

山口 朝子（総務部長）、小林 大介（デジタル化担当部長）、枝吉 敦子（市民部長）、岡本 匡弘（環境部長）、西野 茂（都市整備部長）、池和田 功（都市計画部長）、森田 晃（産業活性課長）、若松 栄（水道部業務課長）

＜欠席者＞（敬称略）

鈴木 実（昭島市農業委員会 会長）、出雲 明子（明治大学公共政策大学院 専任教授）、大田 眞也（昭島市医師会 常任理事）、舩原 邦明（前昭島市都市計画審議会 会長）、松本 祐一（多摩大学 経営情報学部事業構想学科総合研究所教授）

＜配付資料＞

日程、資料1：第5章 大綱5～8 主な変更点、資料2：第5章 施策の体系 大綱5～8、資料3：子どもアンケート分析結果、参考資料：昭島市総合基本計画（後期計画）策定に向けた昭島市子どもアンケート調査結果報告書、資料4：「未来のあきしまを描く」まちづくりワークショップ実施報告書

<議事要旨>

1 開会

- 前回議事要旨の確認
事務局より事前送付済みの議事要旨について、期日までに特段の意見・指摘はなく、この場でも異議なし。第2回審議会の議事要旨を確認済みとした。

2 議題：基本計画（第5章 大綱5～8）

（1）大綱5 環境負荷を低減し、水と緑の自然環境を守るまち

政策調整担当課長：

以下の主な変更点を説明した。

①地球環境の保全

前期計画期間の施策の進捗のほか、気候危機の深刻化等の状況変化を反映。

②水と緑の環境の保全

前期計画期間の施策の進捗を反映。政策指標は3件とも進捗が思わしくない状況だが、それぞれ既存の記載の中で取組を継続。

③ごみ処理の推進

前期計画期間の施策の進捗を反映。進捗の思わしくない政策指標は既存の記載の中で取組を継続。

高橋委員：

環境コミュニケーションセンター前のイチョウ並木の剪定について、地域住民からクレームがある。剪定前の事前説明や将来の回復見通しの周知を求める。また、多摩川クリーン作戦について、玉川上水が近い地区の実情を踏まえ、玉川上水でも同様の清掃活動を実施できないか。

都市整備部長：

強剪定したイチョウ並木については現場を確認しており、今後は事前周知に努める。多摩川クリーン作戦についてはご意見として承り、立地的な実情も踏まえて検討する。

根本委員：

緑地の保全について、街路樹の根の張りすぎによる歩道の隆起・危険箇所の問題がある。将来を見据えた樹木の植え替え等の視点も重要。

田中会長：

昭島市の自然環境の魅力（緑・水辺等）を市民が歩いて楽しめる形で認知度向上につなげる取組を、実施計画の中になろうかと思うが進めていただきたい。

氏井委員：

67 ページの「危険度判定調査」の内容について確認したい。

政策調整担当課長：

令和 6 年に日野市で落枝による人身事故があったことを受け、市内危険樹木の緊急調査を実施したもの。崖線に限らず市内の樹木全般を対象とし、危険樹木の伐採等の対応を進めている。

(2) 大綱 6 快適で利便性に富んだまち

政策調整担当課長：

以下の主な変更点を説明した。

①公共交通網の充実

前期計画期間の施策の進捗のほか、人口増等の変化を反映。

②道路環境の整備

前期計画期間の施策の進捗のほか、交通動向の変化等を反映。

③深層地下水 100%水道水の供給

前期計画期間の施策の進捗のほか、人口増等を踏まえ修正。進捗の思わしくない政策指標は既存の記載の中で取組を継続。

④下水道の維持管理

前期計画期間の施策の進捗を反映。工事の契約不調で遅れた下水道総合地震対策事業（前期 C 評価）は後期で着実に推進。

⑤市街地の整備

前期計画期間の施策の進捗の反映のほか、JR 青梅線北側の市街地の状況変化を反映。

⑥快適な公園の確保

前期計画期間の施策の進捗を反映。政策指標「市民一人当たりの公園面積を増やします」については進捗が思わしくないが、中神駅北側に大きめの公園がオープンしているものの、分母である人口増が上回った結果、指標の進捗が思わしくない状況となっているものであり、取組自体は前進していると判断。

⑦住環境の保全

前期計画期間の施策の進捗を反映。

高橋委員：

A バスについて、どの路線に乗っても必ずスーパー等の買い物拠点に立ち寄れるルートを検討してほしい。自転車規制の強化で自転車利用をやめる市民が増えており、バスの利用促進の観点からも有効ではないか。

都市整備部長：

現在4路線で運行中。交通不便地域の解消を最優先としながら、買い物拠点への立ち寄りという視点も取り入れられないか検討していく。

荒井委員：

管路の耐震適合率について確認したい。

水道部業務課長：

耐震適合率は80.0%（令和7年度末時点）で全国平均44.6%（令和6年度末時点）を大幅に上回っている。配水場の耐震化は完了済み。

細田委員：

宅地開発に伴う人口増で水道の枯渇懸念はないか。

水道部業務課長：

深層地下水の流動調査の結果、今後も水収支はプラスが見込まれる。現在の最大計画給水量に対して平均給水量は十分余裕があり、枯渇の恐れはないと認識している。

高橋委員：

給水車の増配備の方向性を確認したい。

水道部業務課長：

現在3,000の給水車を保有しており、令和9年度に狭あい道路にも対応できる小型（1,500～1,800）の給水車を新たに配備予定。

氏井委員：

国営昭和記念公園昭島口周辺の再整備について、昭島市の土地か、また市はどの程度関与できるか。

都市計画部長：

国土交通省が管理する国の土地であり、整備主体は国。昭島市は過去から意見を伝えており、その結果として昭島口の改修が実現した。レインボープール跡地については、水に係る施設の構想があると聞いている。

堀井委員：

東京都シルバーパスはAバスに使用できないが、保有者数を増やすという政策指標についてAバスの充実・拡充での対応とする位置づけを確認したい。

また、駅周辺への喫煙所設置に関連し、法的・条例上の状況を確認したい。

政策調整担当課長：

シルバーパス保有者数への対応はあくまで政策の指標であり、周知啓発にとどまるが、基本施策の目指す姿「外出時の交通手段が確保され、誰もが安心して移動できるまち」の達成に向けた取組として、交通不便地域の解消を記載している。

企画部長：

昭島市は現時点で屋外の喫煙を条例で全面禁止してはいないが、マナーアップ啓発を実施している。今後、歩行喫煙禁止・ポイ捨て禁止に向けた条例整備と、喫煙所の設置をあわせて検討している。

高橋委員：

イーストテラスや駅周辺への喫煙所設置を求める。近隣市と同様、昭島市内の駅にも喫煙所は必要。また、物流施設稼働前に渋滞対策の道路改修を実施すべき。

都市整備部長：

大型開発に伴う交通量増加への対策として、開発事業者による右折レーン設置等の交差点改良も進んでいる。市としても渋滞緩和に繋がると確認できるところから着手していく。

根本委員：

ボール遊びができる公園が少ないという声が多い。今後の整備方針を確認したい。また、公園のごみ問題への事前対策（看板設置等）も必要ではないか。

都市整備部長：

今年度オープン予定の新畑公園はボール遊びができる公園として整備中。他の公園でも要望はあるが、利用者の安全確保の面で課題がある。今後の公園整備では、ボール遊びができる公園の拡充を検討していく。

田中会長：

子どもアンケートにもボール遊びができる公園に関する意見があった。審議会でも意見として把握していただきたい。

（３）大綱７ 生活を支え、活力を生み出すまち

政策調整担当課長：

①地域振興と就労環境の充実

前期計画期間の施策の進捗を反映。総合戦略との整合から「事業所数を維持します」の指標を削除。政策指標はいずれも進捗が思わしくないが、既存の記載の中で取組を継続。

②商工業の振興

コロナ禍後の社会情勢を反映。政策指標はいずれも進捗が思わしくないが、既存の記載の中で取組を継続。

③都市農業の振興

特定生産緑地制度の創設を反映。政策指標はいずれも進捗が思わしくないが、既存の記載の中で取組を継続。実施計画のうち認定農業者支援事業（前期Ｃ評価）については件数が伸び悩んでいるが、実情としては都の補助事業の活

用により市の支援事業が利用されていない状況であり、目的自体は達成されている。

④観光まちづくりの推進

コロナ禍後の社会情勢を反映。進捗の思わしくない政策指標は既存の記載の中で取組を継続。

⑤消費生活環境の充実

あきしま省エネファミリーの事業完了を踏まえ、政策指標をリユース食器の貸出し利用件数に変更。進捗の思わしくない政策指標は既存の記載の中で取組を継続。

武藤委員：

国際情勢等による社会変化が激しく、市内中小事業者が厳しい状況にある。市として商工会と連携しながら、市内事業者を支援していただきたい。

前田副会長：

若い世代を対象とした低価格のリスキリング・リカレント教育による、特にデジタル技術の学びの機会を設ける必要がある。近隣大学や市民大学構想と連携した取組を検討いただきたい。

政策調整担当課長：

リカレント教育については大綱4（生涯を通じた学習活動の推進）に記載があり、デジタル技術を活用した学習機会の提供等を盛り込んでいる。事業を実施する関係部署には意見を伝える。

田中会長：

まちづくりワークショップでのくじらロードの空き店舗活用の提案と、大綱7の商店街活性化の取組との関連性を確認したい。

政策調整担当課長：

ワークショップの提案をそのまま計画に落とし込むことは難しいが、内容は市全体で共有済み。空き店舗活用・にぎわい創出という目的の方向性は合しており、実現可能なものから具現化を検討していく。

（4）大綱8 計画実現のために

政策調整担当課長：

①健全で持続可能な行財政運営の推進

経済動向・社会情勢・人口増・新たな行政課題等を反映。中期行財政運営計画との整合を図り取組項目の順序を変更。

②連携と協働によるまちづくりの推進

こども基本法の制定・地域コミュニティ活動連携推進計画の策定を反映。市政参加意欲の低迷を踏まえ、デジタル技術を活用した市民参画促進の記載を

追加。

③情報通信技術の活用

前期計画期間の施策の進捗を反映。地方税電子化事業（前期C評価）は前期計画期間中に実施見込み。

④「ふるさと昭島」として愛されるまちづくりの推進

人口増・社会情勢を反映。子どもアンケート・若者ワークショップの分析を踏まえ、情報発信力の強化と市民参画の推進を主な取組 a. 郷土愛の醸成に追記。

高橋委員：

「クリケットのまち昭島」の取組について、計画上に位置づけがなく、市として推進するのか否かの方向性を明確にしてほしい。

企画部長：

クリケットの活動自体は中学校の部活動等で継続中。ただし、熱中症の懸念等の課題もあり、現時点で市として大々的に広報推進する状況には至っていない。生涯スポーツの一環として取り組んでいく。

前田副会長：

世界的に見てもクリケット人口は多い。昭島でもしっかり定着させていきたい。

氏井委員：

子どもアンケートで「市政参画の推進」への認知が低い結果が出ていた。アンケートの結果や審議会での議論について、参加した子どもたちへのフィードバックが市政参画意識の向上につながるのではないかな。

政策調整担当課長：

パブリックコメントの素案公表の際に、子どもアンケート結果と計画内容との関連を示せるよう工夫していく。

田中会長：

開かれた行政の推進にあたり、市民がどうすれば意見を反映できるかという「行政の仕組み」そのものを、デジタルを活用してわかりやすく公開することが重要ではないか。また、審議会でのボール遊びができる公園に関する議論なども、子どもアンケートへのフィードバックとしてPRしていただきたい。

小川委員：

計画書にわからないカタカナ語や専門用語が多い。注釈・用語解説の整理を行い、市民が読みやすい表現（日本語表記の工夫等）にしてほしい。

政策調整担当課長：

市民に読んでいただいてこそ計画であり、できる限りわかりやすい形になるよう検討する。

氏井委員：

武藤順九彫刻園及び周辺の緑が開発工事開始後も現存していることを知らない市民が多いと思われる。市として周知・広報を行ってほしい。

都市計画部長：

現在も見学可能であり、周知方法について検討する。

3 その他

事務局（藤岡）：

①第4回審議会：令和8年8月26日（水）午後6時30分より、市役所3階庁議室にて開催予定。第1章および第5章原案の修正箇所確認のほか、第2章（市の概要）・第3章（人口ビジョン・総合戦略）・第4章（分野別計画）を含む後期基本計画素案を審議予定。資料は8月中旬を目途に送付。事前意見がある場合は事務局へ連絡のこと。

②市民説明会：令和8年9月13日（日）開催予定。田中会長及び氏井委員が出席の予定。引き続き、参加希望の委員を募集する。希望者は次回審議会までに事務局へ申し出ること。

4 閉会